

新^{しん} 緑^{みどり} ニュース



病院の理念

確かな医療技術
やさしい対応
地域への貢献

さんきかい よこはましんみどりそうごうびょういん
医療法人社団 三喜会 横浜新緑総合病院
〒226-0025 横浜市緑区十日市場町1726-7
TEL. 045-984-2400 (代表) FAX. 045-983-4271
発行 地域医療連携室 TEL.045-984-6216 (直通)



2022年 新年のご挨拶



新年あけましておめでとうございます。今年は皆様にとって良い1年であることを願っております。

昨年も新型コロナウイルス感染症で明け暮れた1年でした。第3波で年が明け、春に第4波を経験しました。一旦は感染者は減少しましたが、東京オリンピック頃から感染者が増加し、最大の第5波となりました。医療崩壊が危惧される状態になりましたが、その後急激に感染者数は減少しています。ワクチン接種の効果もあると思われますが、減少の要因は未だはっきりしません。感染状況の改善により、経済活動の制限が緩和され、人の移動接触も増加し、以前ほどの緊張感もなくなっています。



しかし諸外国では寒くなるにつれ感染者数が再び増加していますし、新たに感染力が強いといわれているオミクロン株が出現し、日本でも市中感染が確認されています。感染の急拡大が懸念されますが、3回目のワクチン接種もあり、今年も忙しい1年となるような気がします。

当院は、超高齢社会を支える地域の急性期病院として、安心、安全な標準的医療を迅速に提供することを方針として運営してきておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響などにより病院経営の見直しを余儀なくされております。病院経営の継続のため、経営資源の集中を図るべく、やむなく本年2月末で眼科診療を終了とすることといたしました。ご不便とご迷惑をおかけしますがご理解をいただきたいと思っております。

なお本年春から、より円滑に脳卒中患者さまの受け入れができるように、脳卒中集中治療室(SCU)を3床から8床に増床する予定です。また4月からは新たな体制となり、内科、消化器内科に常勤医が1名ずつ入職します。

普通の生活に戻れることを願って、もうしばらく頑張りましょう。



病院長 向井 恵一



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年も新型コロナウイルス感染症流行により不自由な生活を余儀なくされる一年となりました。地域の皆様には受診時の手指消毒や検温、入院中の面会制限など、継続した感染防止対策にご協力いただきました。リモートでの面会は、直接お顔を見ることが出来ず不安な思いをされた事と思っております。

職員も平時とは異なる対応にジレンマを感じた1年でもありましたが、皆様のご理解とご協力により感染拡大なく新年を迎えることが出来、心より感謝申し上げます。この1年を通じて、現在の状況を特別な事と捉えず、常に当たり前の事として行動する事が大切であると感じています。今年も皆様に安心してご利用いただき、地域へ貢献できるようなお一層努めてまいります。

新たな一年が皆様にとって健康で幸多き年になることを心より祈願いたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

副院長 兼 看護部長 天野 友子





今年度より救急外来と一般外来が区分され、これまで以上に救急患者さま対応に専念できる体制を整備しました。医師は外来診療や手術・治療処置など兼任する中、救急担当医師を選出し、多くの患者さまの対応が可能な体制を整え、夜間は内科・脳外科・外科系（整形外科又は外科）の3科が、近医からのご紹介や救急搬送患者さまに対応しています。



コロナ禍において、救急搬送時に発熱している方を診療する陰圧対応可能なベッドを2床設置し、感染拡大防止を図りながら、安全で効果的な初療を実践しています。突然の発症に伴い、患者さま本人のみならずご家族の戸惑いや不安も計り知れない場面が多くある救急現場です。迅速な救急隊の方と家族ケアに力を注ぎ、地域で求められる二次救急医療の提供が出来る事をめざし努力しています。また、救急対応だけではなく血管内治療にも携わり、治療の幅が広がる医療に対しても適切な対応が出来るように研鑽しています。

地域との連携が求められる救急外来で、プレホスピタル（病院前救護）を担う救急隊や在宅療養中の患者さまを支える在宅支援チームの方々とこれまで以上に効果的な連携を構築し、この地域の皆さまが安心して暮らせるよう地域包括ケアチームの一員として救急看護を実践して参ります。

院内合同防災訓練

12月10日(金)、緑消防署十日市場出張所の方にも参加していただき、今年2回目の院内合同防災訓練を実施しました。今回は、夜間に大きな地震が起きたことを想定して訓練を行いました。

地震発生直後は、速やかに入院患者さまの安全を確認するため、看護師が病院内をラウンドして異常がないかを確認します。また、ベッドシートを用いて歩けない患者さまを搬送する方法や、消火器の正しい使い方や注意点などを消防署の方から直接ご指導いただきました。

最近では地震や噴火などの自然災害が多く起きているように感じます。いつ発生してもおかしくない大きな地震や火災に備え、当院では、日頃から消火栓や散水栓の訓練を行うなど、防災意識の向上に努めています。



無痛MRI乳がん検診

女性のがんの中でも最も多いのが「乳がん」ですが、他のがん同様、検診で発見された場合と自覚症状が出てから見つかった場合とでは5年後の生存率に大きな差が出るといわれています。

この度当院健診センターでは、乳がんの早期発見にお役立ていただくため「無痛MRI乳がん検診」の導入が決定しました。



これは、当院の高性能MRI機器を使用した検査で、従来のマンモグラフィ検査のような乳房を挟む痛みはありません。また、検査着を着たまま受けられますので、「見られる」ことが当たり前だった乳がん検診に革命をもたらした検査でもあります。

2月のスタートに向けて準備を進めており、予約開始はホームページ等でご案内いたします。当院の「無痛MRI乳がん検診」にご期待ください。

WEB版みんなの健康講座 ※オンライン配信

◇ WEB版みんなの健康講座はホームページ、スマホ（QRコード）からいつでもご視聴いただけます。

WEB版
みんなの健康講座
バックナンバー



WEB版 みんなの健康講座 第11回
骨盤臓器脱手術(NTP法)について
～当科が行う手術法～
横浜新緑総合病院 婦人科部長 清河 薫

